



# 第10次 奥尻町社会教育計画 中期5力年計画 (令和8年度～令和12年度)



奥 尻 町 教 育 委 員 会

## は　じ　め　に

今日、私たちの社会は、少子高齢化や人口減少の進展、デジタル技術の急速な進化、さらには価値観の多様化など、大きな転換期を迎えています。こうした先行きの不透明な時代において、町民一人ひとりが生涯を通じて学び続け、その成果を地域社会の活性化に活かしていく「社会教育」の役割は、これまで以上に重要となっています。

奥尻町では、これまで第9次奥尻町社会教育中期5カ年計画を掲げ、地域づくり・人づくり・つながりづくりに努めてまいりました。一定の成果が得られた一方で、少子高齢化、コミュニティの希薄化、担い手不足、多様化する学習ニーズへの対応といった新たな課題も顕在化しております。

このたび策定いたしました「第10次奥尻町社会教育中期5か年計画」は、これまでの取り組みを継承しつつ、町民の学びを機会を提供し、その学びが個人の人生を豊かにするだけでなく、地域の絆を深め、持続可能な社会を築く原動力となることを目指しています。

本計画は社会教育委員、スポーツ推進委員、文化財保護審議員から構成される奥尻町社会教育中期5カ年計画策定委員会に諮問し、審議を重ねて答申いただいたものです。

今後5年間、計画の推進にあたっては、行政のみならず、町民の皆様、学校、家庭、そして地域団体が手を取り合い、一丸となって取り組むことが不可欠です。「学びが人を育て、人がまちを創る」という好循環を確かなものにするため、皆様のより一層のご支援とご参画をお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました策定委員の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心から感謝を申し上げ、あいさつといたします。

令和8年3月

奥尻町教育委員会  
教育長 新 谷 順 二

# 目 次

## 第1章 奥尻町民憲章と奥尻町教育大綱

奥尻町民憲章	1
奥尻町教育大綱	2～6

## 第2章 奥尻町社会教育中期5力年計画

### 第1節 計画策定について

I 社会教育推進の基本的視点	7
II 計画策定の基本的な考え方	8
III 全体構造	9

### 第2節 社会教育各領域の計画

I 家庭教育	10
II 青少年教育	11
III 成人教育	12
IV 社会スポーツ	13
V 歴史・文化	14
VI 施設運営	15

## 第3章 資料編

### 第1節 関連資料

I 奥尻町地域学び支援ネット参画リスト	17
II 社会教育施設の概要	24
III 指定文化財の概要	26

### 第2節 基礎資料

I 人口及び世帯数の推移	29
II 年齢別・男女別人口数	30
III 奥尻町立幼稚園・小中高等学校在籍者数の推移予測	31
IV 社会教育施設の利用状況の推移	32
V 社会教育に関するアンケート結果	33
VI 奥尻町社会教育計画のあゆみ	43
VII 奥尻町社会教育中期5力年計画策定委員会名簿	44

## 第 1 章

### 奥尻町民憲章と奥尻町教育大綱

# 奥尻町民憲章

わたしたちは、緑ゆたかな神威の山と、幸多い日本海を友として、清くたくましく育まれた奥尻の町民です。

風雪に耐えて秘境をひらいた先人の偉業をたたえ、恵まれた自然と郷土を愛し、みんなの力と創意をはたらかせ、誇りと責任をもち、希望にみちた住みよい町づくりに努めます。

- 自然を生かし、環境をととのえ、美しい町にしましょう
- 力をあわせ、生産の工夫につとめ、豊かな町にしましょう
- きまりを守り、心とからだをきたえ、明るい町にしましょう
- たがいに学び、教養を高め、みのりある町にしましょう
- 郷土を愛し、未来をひらく若い力を育て、伸びゆく町にしましょう

昭和53年7月15日制定



おくしりチャレンジスクール おくしり自然塾「探検編」

# 奥尻町教育大綱

## 教育目標・基本方針

### 教育目標

ふるさとに学び、次代を担うあたたかい人づくり

### 基本方針

#### 1 多様な子ども達の可能性を最大限に引き出す教育の推進

教育課程の適切な編成・実施をするとともにグローバル化や情報化社会が進展し、新たな時代に必要な資質・能力の育成、幼児期からの切れ目のない支援体制等子ども達の可能性を最大限に引き出す教育の推進を目指します。

#### 2 誰一人取り残さない子どもの学びの機会と環境の整備

家庭環境等、様々な背景・特性を持つ子どもたちが安心して質の高い教育が受けられるよう環境を整備し、子どもの健やかな成長を社会全体で後押しできる体制を目指します。

#### 3 地域と共に歩む持続可能な教育の実現

社会全体で子ども達を守り育てる体制づくりを目指し、地域の絆を深めると共に生涯を通して学び続けられる環境の整備や持続可能な社会を築き、ふるさとへの愛情と誇りの醸成を図ります。

令和8年3月制定



令和4年度 成人式

## 1 多様な子ども達の可能性を最大限に引き出す教育の推進

### ①新しい時代に必要な資質・能力の育成

- 主体的・対話的で深い学びの更なる充実
- 生きて働く知識、技能、未知の状況に対応できる思考・判断・表現力向上に向けた取組
- 教育 DX・Step-Up 事業を核とした STEAM 教育、キャリア教育、ICT 教育の充実
- グローバル人材の育成、外国語教育の充実

### ②特別支援教育の推進、充実

- 切れ目のない一貫した教育や支援体制の充実
- 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制の整備
- 通常学級における合理的配慮の提供、充実
- 特別支援学級の教育活動全体を通じて行う自立活動の充実
- 全ての教職員を対象とした特別支援教育に関する研修の充実
- 「発達支援センター」による、より専門的で個別的な育ちの支援の充実

### ③体力、運動能力の向上

- 子どもの実態を踏まえた体力、運動能力の向上を目指す指導の充実
- 学校、家庭、地域等と連携・協働した運動機会の充実

### ④健康で安全な生活習慣の基礎となる学びの充実

- 心身共に健康な生活を送るための健康教育の充実
- 学校、家庭、地域等が一体となった健康づくりの充実
- 自分の命は自分で守れるよう、危険を予測、回避するための知識、行動力、判断力を身に付ける、安全教育・防災教育の充実

### ⑤幼児教育の充実

- 幼児の自発的な活動としての「遊び」を通して育む資質能力の育成、充実
- アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムをスムーズにつなぐマネジメント
- 乳幼児期からの豊かな育ちを支える支援の充実

### ⑥道徳教育の充実

- 「考え議論する道徳」の充実
- 互いの個性や立場を尊重し、他者を思いやる豊かな心を育む教育（ピアサポート）の充実

### ⑦ふるさと教育の充実

- ふるさとと奥尻に対する誇りと愛着を育むふるさと教育の充実
- 「奥尻町地域まなび支援ネット」による地域人材の積極的な活用

## 2 誰一人取り残さない子どもの学びと環境の整備

### ①ICT 教育、教育 DX の推進

- デジタル学習基盤の整備
- 教育における ICT 活用の日常化
- 個別最適な学びと協働的な学びのさらなる充実
- 教育 DX・Step-Up 事業のさらなる充実

### ②いじめ、不登校対策

- 学校、家庭、地域と連携し、いじめ予防・防止、早期発見、早期対応する体制の充実
- 学校、家庭、地域と連携し、不登校予防・対策、丁寧で継続的に対応する体制の充実
- 子どもの実態に応じた多様な学びの機会の充実（オンライン授業、メタバース活用）

### ③幼小中高の連携、切れ目のない接続

- 幼小、小中、中高の切れ目のない接続を目指す「奥尻町架け橋プログラム」の構築、運用
- 町内教育機関の交流学习の実施、教職員研修への支援

### ④学校の働き方改革、教職員の資質向上

- 教職員が子ども達と向き合う時間を確保するための働き方改革の充実
- 教職員のワークライフバランス、メンタルヘルス、健康管理のための体制づくり
- 教職員のキャリア、特性、主体性を活かした研修機会の保障、管理職による受講奨励

### ⑤子どもの心身の安全の確保、ソーシャルワークの充実

- 児童虐待、ヤングケアラー、子どもの貧困の予防対策
- メンタルヘルス支援、自殺予防対策の充実
- 子ども、家庭、地域住民が相談できる機会の充実
- スクールソーシャルワーカー等関係職員の研修機会の確保及び資質向上
- スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの効果的活用

### ⑥地域創生の視点を踏まえた高校づくりの推進

- 奥尻島全体を教材とした探求学習「まなびじま奥尻プロジェクト」の推進
- 地域社会に主体的に参画する人材育成の推進
- 島内生と島留学生在が島にしながら多様な考えを学ぶことができる教育の推進
- 生徒一人ひとりが夢に向かって挑戦できる確かな学力の定着と進路指導の充実

### ⑦地域・学校の連携

- 学校運営協議会制度を核とした「地域とともにある学校づくり」の実現
- 幼稚園評議員制度を活用した地域との連携強化

### 3 地域と共に歩む持続可能な教育の実現

#### ①地域・学校の連携による子育て支援の充実(家庭教育)

- 親の育ちを応援する学びの機会の提供
- 家庭を見守る地域の支援体制づくり
- 親子の健やかな成長の促進

#### ②次代を担う青少年の健やかな育成(青少年教育)

- 青少年の「生きる力」を育む
- 青少年の「ふるさとを愛する心」を育む

#### ③地域を担う「人づくり」(成人教育)

- 町民同士が協力して地域課題に取り組む機運の醸成
- 地域全体で子育てを支援する機運の醸成
- 広域的社会教育活動による地域の活性化
- 女性団体の社会貢献による地域の活性化
- 高齢者の生きがいづくりと知識の還元

#### ④スポーツをととした「健康・体力づくり・生きがいづくり」(社会スポーツ)

- スポーツ振興の基盤整備
- ライフステージと目的に応じたスポーツ振興
- スポーツ振興による人間力向上と地域活性化

#### ⑤郷土愛を育む歴史・文化活動の推進(歴史・文化)

- 「地域文化財」の保存と活用
- 歴史・文化を“見える化”
- 文化振興及び発表・体験の場の充実

#### ⑥社会教育施設の効果的な運営(施設運営)

- 奥尻町海洋研修センターの効果的な運営
- 稲穂ふれあい研修センターの効果的な運営
- 奥尻島津波館の効果的な運営
- 奥尻町町民センターの効果的な運営
- 奥尻町桜ヶ丘スキー場の効果的な運営



令和5年度 お菓子作り



令和6年度 モルック大会

## 第 2 章

### 奥尻町社会教育中期5力年計画

## 第1節 計画策定について

### Ⅰ 社会教育推進の基本的視点

本町の社会教育を取り巻く環境は、人口減少の加速や少子高齢化の進展等により、大きな転換期を迎えています。

本町の高齢化率は2025年現在、約41%に達しており、社会教育団体や地域の伝統行事を支える担い手の不足が深刻化しています。また、少子化の影響により、子どもたちが多様な集団の中で切磋琢磨する機会が減少しており、地域全体で子どもを育む「地域教育力」の維持・向上が大きな課題となっています。

これらの地域課題の解決に向けた政策が関係省庁から提示されていますが、これらの政策は、地域コミュニティが健全に維持されていてこそ効果を発揮するものであり、その基盤を支える社会教育の役割は一層重要となってきました。

地域において、人々の関係を共感的かつ協調的なものとしていくためには、社会教育による「学び」を通じて、人々の「つながり」や「かかわり」を創出し、互いに協力し合える関係性の土壌を育むことが求められます。

このようにして形成された地域住民同士の関係性は、持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤を支えるものとなります。

さらには、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」が循環的に生み出されることにより、地域コミュニティにおける個人と地域全体のウェルビーイングの向上が期待されます。

このように地域において人と人とのつながりを育み、協調的な幸福感を紡ごうと取り組む住民が、自信と誇りを持って活動できるよう支援していくことが社会教育を進める上で大切となります。

このような環境を築くために、

- ① 家庭・学校・地域が協働して子どもの育ちを支える環境づくりを進める
- ② 青少年が主体的に学び、地域の未来を担う力を育成する
- ③ 成人が学び続ける「生涯学習社会」の実現
- ④ スポーツを通じた健康づくりと地域コミュニティの活性化
- ⑤ 歴史・文化を活かした地域の魅力向上

の5つの目標の実現を目指し、

【家庭教育】	地域・学校との連携による子育て支援の充実
【青少年教育】	次代を担う青少年の健やかな育成
【成人教育】	地域を担う人づくり
【社会スポーツ】	スポーツを通じた健康・体力づくり・生きがいづくり
【歴史文化】	郷土愛を育む歴史・文化活動の推進
【施設運営】	社会教育施設の効果的な運営

の6つの領域による社会教育の推進を図ることで、今後5カ年にわたる本町社会教育行政を展開します。

## II 計画策定の基本的な考え方

---

### 1. 計画の名称、期間

この計画は、「第10次奥尻町社会教育中期5カ年計画」と称し、令和8年度を初年度とする令和12年度までの5カ年計画とし、今後の社会状況の変化推移や事業の進捗状況により適宜調整を行う。

### 2. 計画の位置付け

- (1) 奥尻町町民憲章の理念として策定された「第6期奥尻町発展計画」及び「奥尻町教育大綱」に基づいて、その実現を目指す。
- (2) 第9次奥尻町社会教育中期5カ年計画(令和3年度～令和7年度)での課題や関連性を明確にしながら、これからの社会情勢を見据えて策定する。
- (3) 「北海道教育推進計画」、「檜山管内教育推進の重点」の指針を考慮する。

### 3. 策定までの経緯

この計画は、奥尻町教育委員会が令和7年度に次年度以降の計画更新に向けて、奥尻町社会教育中期5カ年計画策定委員会に諮問した。

策定委員会のなかでは、社会教育における現状や課題を明らかにし、領域ごとに部会を開き、審議を重ねたものを答申いただきまとめたものである。

### III 奥尻町社会教育中期5カ年計画（R8～R12）の全体構造

<b>理念</b>	奥尻町の風土に根ざす生活文化向上のため、生涯学習の観点に立ち、ふれあいと活力に満ちた町づくりを目指す社会教育の推進
-----------	---



## 第2節 社会教育各領域の計画

### Ⅰ 家庭教育 ー 地域・学校との連携による子育て支援の充実

#### 現状と課題

近年、祖父母世代と同居しない核家族や単身親世帯が増加し、家庭内での育児・教育の経験伝承が困難になっています。また、近所付き合いの減少により、家庭が地域から孤立し、悩みや不安を一人で抱え込む「孤立育児」が深刻化しています。

経済的な困難、ひとり親家庭、共働き世帯の増加など、家庭環境も多様化しており、それぞれの状況に応じたきめ細かな支援が求められています。

こうした現状から、奥尻町では、家庭教育を「すべての教育の出発点」と位置づけ、家庭教育支援チーム「ままちるclub」による乳幼児の親子を対象に、絵本の読み聞かせや保護者同士の交流・相談の場を定期的に提供したり、「おくしりチャレンジスクール」などの事業を通じて、保護者が安心して子育てができる環境づくりに注力してきました。

今度も関係機関とのより一層の連携を進め、親子で自然体験や地域行事への参加の機会を増やすなど親子のふれあいの場の提供を行うとともに、親同士が交流する場の提供や地域人材との交流の場を作ることとおして、地域全体で家庭教育支援を行う環境作りが必要です。

#### 施策

##### (1) 親の育ちを応援する学びの機会の提供

子育てに関する不安や悩みの解消などの学習機会を提供する事で、親の子育て力の向上を図る。

##### (2) 家庭を見守る地域の支援体制づくり

家庭・地域・学校が連携し、地域全体で子育て家庭を支援する体制づくりを進める。

##### (3) 親子の健やかな成長の促進

親子が一緒に参加しふれあえる事業や講座を実施することでともに歩む親子の健やかな成長を促す。

#### 主な施策例

- a 家庭や子育ての在り方について学ぶことができる研修会や講座の開催
- b 子育て家庭が必要とする情報の発信
  
- a PTA連合会の活動の支援
- b 関係機関との連携による子育て支援の実施及び体制づくり
  
- a 親子が一緒に参加することができる事業の展開

## 現状と課題

青少年の育成は、次代を担う社会の担い手として、心身ともに健やかで、自立することを目的とし、体験活動などをおし、考える力や思いやりの心などを養い、社会とのつながりを自覚させ、将来の夢や希望を持って自己の可能性を伸ばせるよう、家庭・地域・学校が一体となって支えることが必要です。

奥尻町では、学校・家庭・地域が連携し、子どもたちが郷土に誇りを持って成長できる環境づくりを推進しており、他町との交流、コミュニティ・スクールへの支援、地域資源を生かし、地域の大人たちが講師となり、昔の遊びや工作、スポーツなどを通じて学年を超えた交流を図る「おくしりチャレンジスクール」を展開してきました。

しかし、令和7年度全国学力・学習状況調査の小学校質問紙「地域の大人に授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。」の質問項目では、「ある」「ときどきある」と答えた児童が全国・全道よりも少なく、社会教育事業の参加者の固定化と新規参加者の確保が課題となっております。

今後は家庭・地域・学校と連携し、幅広い分野の体験活動等をおして、青少年の育成を進めていく必要があります。

### 施策

#### (1) 青少年の「生きる力」を育む

家庭・地域・学校が連携・協働して青少年の「生きる力」を身につける事業を実施することで、社会の一員としての自覚や、豊かな人間性を育む。

#### (2) 青少年の「ふるさとを愛する心」を育む

奥尻町の自然や歴史・文化、地域住民とのふれあいを通して、ふるさと奥尻を愛する心を育む。

### 主な施策例

- a 地域と子供たちをつなぐ、社会教育事業の実施
  - b 事業周知の工夫
  - c 他地域との交流による人間性の育成
- 
- a 地域行事・活動への参加を通じた郷土愛の醸成
  - b 地域資源を生かした体験活動の充実
  - c コミュニティ・スクールへの支援

## 現状と課題

社会が急速な変化を続け、予測困難な時代となりました。

日本の人口も少子化等により減少している中で、奥尻町はますます少子高齢化の進行と共に高齢人口の減少が進んでいます。若年層も進学等で島を出てからUターンすることはあまりなく、「消滅可能性自治体」とされています。

このことは、様々な世代で孤立や孤独を生み、人との繋がりが希薄化し、地域産業を支える担い手不足や生産・消費の縮小、地域におけるコミュニティ機能の低下など生活に様々な影響を及ぼしており、かつて行なわれていた取り組みや事業など様々な活動の規模が縮小傾向にあります。

このような中、地域の繋がりを強くして良い人間関係を築き、健康で前向きに生活できるウェルビーイングが継続して循環する仕組みづくりを進める必要があります。

### 施策

#### (1) 町民同士が協力して地域課題に取り組む

##### 気運の醸成

持続可能な潤いのあるふるさとづくりを目指す学びを推進する

#### (2) 地域全体で子育てする気運の醸成

奥尻町地域学び支援ネット(域学校協働本部)を活用し、地域全体で子供たちを育てる気運を高める。

#### (3) 広域的な社会教育活動による地域の活性化

市町村間での交流や情報交換を通じて、地域の活性化を図る。

#### (4) 女性団体の社会貢献による地域の活性化

女性の積極的な社会参画による、女性ならではの地域貢献を目指す。

#### (5) 高齢者の生きがいづくりと知識の還元

高齢者へ生涯学習や社会教育活動を展開することで、仲間づくり、生きがいづくりを進め、地域に還元することで地域の活性化を図る。

### 主な施策例

- a 関係機関との連携による課題解決への学びの実施
- a 地域学び支援ネット参画リストの整理、活用
- b 家庭教育サポート企業等制度締結への呼びかけ
- a 社会教育団体同士の市町村間連携
- a 女性団体連絡協議会への支援
- b 地域支援ボランティアの要請
- a 異世代、同世代交流の促進
- b 高齢者の生きがいづくりを進める学習プログラムの提供

## 現状と課題

社会スポーツは、少子高齢化や生活様式の多様化が進む中で健康づくりや生きがいづくり、地域コミュニティの活性化に重要な役割を担っている一方、指導者不足や参加者の固定化、施設の維持などの課題も抱えており、誰もが継続的に参加できる環境整備が求められています。

町内のスポーツクラブ加入人口は減少しているものの、振興スポーツに対する潜在的なニーズは非常に高い状況にあります。

今後は、既存のスポーツ振興を継続しつつ、話題性の高い新興スポーツの体験会を積極的に開催し、これまでスポーツに関心が低かった層を取り込み「誰もが、いつでも、気楽に楽しめる」スポーツ環境の整備を推進する必要があります。

### 施策

#### (1) スポーツ振興のための基盤整備

誰もが気軽にスポーツに取り組み、携わることができる環境を整備することで、スポーツ参加人口の拡大を目指す。

#### (2) ライフステージと目的に応じたスポーツ

##### 振興

スポーツの楽しさや、健康に関する正しい知識を伝え子供から高齢者までが活力に満ちた生活が送れるようなサポートをする。

#### (3) スポーツ振興による人間力向上と地域

##### 活性化

スポーツを通して人間力の向上を図り、人間関係の輪を広げることで、地域活性化につなげる。

### 主な施策例

- a 学校施設開放事業の展開
  - b 奥尻町スポーツ協会への支援
  - c 奥尻町スポーツ少年団への支援
- 
- a 各種スポーツ大会・講座等の開催及び協力
  - b 町民の健康維持・増進に関わるプログラムの提供
  - c 町民体育祭実行委員会への支援
- 
- a 指導者・有資格者の育成と支援
  - b スポーツを通した他町との交流機会の提供
  - c スポーツに関する情報や知識の提供

## 現状と課題

郷土の歴史や文化を学んだり芸術文化に触れたりすることは、心の豊かさや生活への潤いを与え、生きる喜びをもたらします。地域を知り、その学びを共有することは郷土愛を育むとともに、人と人、人と地域の結びつきを強めることにつながります。

町内では、稲穂ふれあい研修センターにて島内の歴史文化を象徴する文化財を保存・活用し、奥尻島津波館と海洋研修センターにも一部の歴史文化財を展示して一般に公開しています。道指定文化財には「新羅之記録」のほか、「青苗遺跡出土品」や「青苗砂丘遺跡」という考古分野が指定され、近年では特に青苗遺跡出土の「丁字頭勾玉」や「宮津弁天宮」などの町指定文化財の保存活用、保護が図られています。これらは後世へ引き継ぐべく文化遺産として、町民の皆さんとともに大切にしていきたい島の宝であります。

芸術・文化活動は多岐にわたり、多くの分野があります。自分の生活習慣に合わせて活動でき、交流を深めるきっかけともなり、自己肯定感や満足感を高めることにもなります。継続した学びや発表の場に参加することで地域への愛着が増し、地域社会を活性化させるなど、多くの効果が期待できます。

これから町の歴史・文化、芸術活動をさらに充実させることで郷土愛を深め、地域振興を図るためには、地域に残る文化的財産を「地域文化財」という資源とみなし、着実に次世代へつなげていくことが必要となってきます。

### 施策

#### (1)「地域文化財」の保存と活用

島内の遺跡、地域史、生活史、伝統芸能等に係わるヒトとモノを中心とする「地域文化財」を発掘する。地域に残る史資料を発見・集積し、展示・活用することで普及・啓発を図り、地元への関心を高め、郷土愛の精神が自然に醸成されるようにする。

#### (2)歴史・文化を“見える化”

島内に見直されるべき「地域文化財」が存在すると認識し、地域振興のための資源とみなす。展示施設の運営や広報活動を通じて、それらを広く一般公開し、町民や来島客の興味関心を惹くよう見せていく。研修団体や学校見学の利用促進を図ることで、文化財を次世代へ継承し、後世へ伝えていく。

#### (3)文化振興及び発表・体験の場の充実

各種文化団体やサークルの活動支援を行い、成果を発表することで世代間の交流を進める。文化体験の場を提供し、文化振興による地域振興を目指す。

### 主な施策例

- a 収蔵資料の積極的活用
  - b 新資料の収集と保存
  - c 文化財保護の理念と重要性を学ぶ機会を提供
  - d 郷土芸能、伝統祭祀の保護と継承
- 
- a 説明看板、パンフレット、学芸便り等による周知活動
  - b 展示の仕方、見せ方の工夫。魅力的な展示、作品の提供
  - c 研修団体や学校見学の受入れ促進
- 
- a 奥尻町文化協会及び所属サークルへの支援
  - b 島内外で発表の機会や巡回公演等の体験の場を設ける

## 現状と課題

社会教育施設として運用している施設は、町民の社会教育活動やスポーツ振興を行う場所として設置されています。

町民は各施設を社会教育活動や地域活動の拠点として活用していますが、各施設とも築年数が20年以上経過し、老朽化や劣化が顕著に現れてきています。

今後は、大規模改修や老朽化施設の見直し等も予測されることから、今まで以上に長く施設を維持するための工夫が必要となり、個別施設計画に則った各施設の運営を計画的に進めていく必要があります。

## 施 策

## (1) 奥尻町海洋研修センター

## (2) 稲穂ふれあい研修センター

## (3) 奥尻島津波館

## (4) 奥尻町町民センター

## (5) 奥尻町桜ヶ丘スキー場

## 主な施策例

- a 町民、社会教育活動団体への活動支援
  - b 奥尻町読書活動推進計画に基づく図書室の運用
  - c 生涯学習への普及活動
  - d 個別施設計画に基づいた施設運営
- 
- a 町内歴史・文化資料を集積、展示による奥尻島史の伝承
  - b 研修活動への支援、協力
  - c 個別施設計画に基づいた施設運営
- 
- a 町内災害・文化資料を集積、展示による北海道南西沖地震の伝承
  - b 防災意識の啓発活動
  - c 個別施設計画に基づいた施設運営
- 
- a スポーツ活動の普及振興
  - b 研修活動への支援、協力
  - c 個別施設計画に基づいた施設運営
- 
- a 町民の冬期間の健康増進とスノースポーツの普及振興



奥尻町海洋研修センター



奥尻島津波館

# 第 3 章

## 資 料 編

## 第1節 関連資料

### 1 奥尻町地域学び支援ネット参画リスト

令和8年3月現在

#### 家庭教育サポート企業

家庭教育サポート企業制度は、北海道教育委員会が家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業等と協定を締結し、企業は「職場の子育て環境づくり」「職場見学・職場体験の実施」「学校行事への参加促進」などの取組みを通じて家庭教育の一層の推進を図るための制度です。

	企業・団体名	支援内容	備考
1	オクシリアアイランドフェリー株式会社	船舶内、陸上施設の見学 船舶輸送活動、社会的役割の講話 切符販売等の体験学習	繁忙期(5~9月)外が望ましい
2	株式会社海老原建設	建設現場などの体験学習	中高が望ましい
3	叶寿司	成功できる人、できない人の分かれ道について講話	いつでも可 中高が望ましい
4	株式会社堀清水組	パワーショベル、油圧ショベルなどの重機体験	高校生が望ましい 現場にて対応可
5	株式会社明上石油店	職業体験から学ぶ島のエネルギー事情 島での商工業生き残り戦略の講話 スタンドでの体験学習	スタンドは春、秋が対応しやすい 室内はいつでも可
6	奥尻ライオンズクラブ	地域の子どもたちの見守り	
7	有限会社奥尻電化センター	地域の子どもたちの見守り 学校行事への参加奨励	
8	有限会社奥尻総合サービス	地域行事での子どもたちの見守り 学校行事への参加奨励	
9	成田薬店	地域の子どもたちの見守り	
10	ヤマト運輸株式会社奥尻センター	安全教室の実演 荷物の集荷から配達までの講話	6、7、12月以外
11	北の岬さくらばな	食堂、売店の体験学習 加工所での体験	6、7月が対応しやすい
12	旅の宿大須田	学校行事への参加奨励 職場体験	職場体験は小中高で 通年対応可
13	奥尻島御宿さくち	職場見学、職場体験	
14	大同舗道(株)奥尻営業所	舗装工事の職場(現場)見学	
15	奥尻島観光協会	職場体験 観光について出前講座 防災教育として津波語りべ	
16	(有)ブラザーサン	職場体験 子どもたちの見守り、声かけ	
17	株式会社越森石油電器商会	子どもたちの見守り 職場体験	

	企業・団体名	支援内容	備考
18	日本郵便(株) 奥尻郵便局	職場見学、職場体験を通して働くことの意義について話し合う機会を作る 学校行事への参加奨励	
19	奥尻町交通安全協会	地域行事への協力、支援	
20	日興電機株式会社 奥尻営業所	地域行事での子供たちの見守りや安全電機技術の安全についての講話	
21	坪谷冷菓店	職場体験	
22	株式会社奥尻ワイナリー	ブドウ畑の収穫、ワイン工場の見学 など職場体験	
23	社会福祉法人 奥尻福祉会(老人ホームおくしり荘等)	職業体験(中学生) 介護体験学習(高校生) 交流学习(小学生) 学校行事参加促進、有給休暇活用促進	
24	奥尻町社会福祉士会	福祉に関する普及啓発 成年後見制度に関する普及啓発	
25	民宿いなほ	職場体験の受け入れ 子どもたちの見守り	小・中・高可 時期要相談
26	民宿木村さん家	職場体験の受け入れ	中・高可
27	宮津簡易郵便局	職場見学受け入れ	小学生可
28	渡島総合振興局 函館建設管理部 奥尻出張所	工事現場の見学 道路事業の概要の講話	中・高可 夏期～冬期可 松江・神威協対応可
29	ひまわり弁当	地域の子どもたちの見守り	
30	ひやま漁協奥尻支所	職場体験受け入れ	小・中・高可 5～7月、9～11月受入可(要相談)
31	石川精肉店	職場見学	幼・小可 要相談
32	(株)ライフボックスやました	職場体験の受け入れ	小・中可 10月頃が望ましい
33	辻売店(フェリーターミナル2F)	職場体験の受け入れ 職場訪問	小・中・高可 観光シーズン(6～8月)
34	(有)さいとうストア	職場体験の受け入れ	中・高可
35	Bella vista (ベラビスタ)	職場体験の受け入れ	小・中・高可 9,10月可
36	サロンド・トップ (理容店)	職場見学、体験の受け入れ	小・中・高可

	企業・団体名	支援内容	備考
37	まつや食堂	職場体験の受け入れ	中・高可
38	株式会社 工藤組	職場体験の受け入れ 学校行事参加啓発 学校イベント協力	
39	民宿 清運丸	地域の子どもたちの見守り	
40	民宿 いしおか	職場体験・訪問の受け入れ	中・高可 観光シーズン(6~8月)受入可
41	川尻水産	塩ウニ加工体験	中学生可 7月15日~8月15日可 工場対応
42	福野商会	職場体験の受け入れ	高校生可 10月20日~12月、3月20日~5月連休以外対応可
43	株式会社 おくしり旬会	職場体験の受け入れ	小・中・高可 6~12月可
44	松江簡易郵便局	職場体験の受け入れ 通勤時の子どもたちの見守り	小・中・高可 9, 10月が望ましい
45	合同会社 奥尻警備保障	地域の子どもたちの見守り	
46	民宿土井	職場体験の受け入れ	中・高可 7~8月可
47	ホシバ配管	水道管のネジ切り、組立	高校生可 2~3月が望ましい 自社作業場で対応
48	有限会社 辺見商店	視察、職場見学	4, 8, 12月以外可
49	素泊まり民宿島じかん	子どもたちの見守り	
50	小山製材所、ペンションこやま	職場見学、地域の子どもたちの見守り	職場見学実施は要相談
51	日本郵便青苗郵便局	地域・学校行事への参加 職場訪問の実施	
52	有限会社青苗ハイヤー	タクシーを使用し、島内観光地をめぐる 奥尻再発見や島の交通事情の学習	タクシー仕組みは会社敷地内で実施。観光・交通事情は奥尻島内で実施。
53	野口製材所	学習用木材の提供等	
54	工藤建設株式会社	地域行事への協力・支援 学校行事への参加促進	
55	民宿かさい	子どもたちの見守り	
56	株式会社 北海道エアシステム	機内誌やホームページでの広報(共同の取組) 出前授業の実施	

## 学校支援企業

奥尻町の学校や子供たちのために支援や協力をしてくださる企業や団体をご紹介します。

	企業・団体名	支援内容	備考
1	有限会社 奥尻グリーンサービス	下水道施設、浄化槽保守点検など施設 見学、業務について講話	
2	食堂潮騒	職場体験	

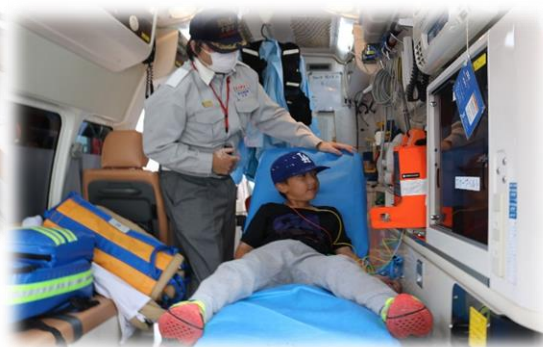
## 行政機関

奥尻町役場をはじめ、各行政機関も奥尻町の子供たちの生きる力やふるさとを愛する心を育みます。

	部署	支援内容	備考
1	総務課	職場体験の受け入れ	中高が望ましい
2	くらし安心課 保健指導係	健康づくりに関する講話 性の講和(小5・6年生) 赤ちゃん人形・妊婦疑似体験	学校対応可 小中高が望ましい 学校対応可 小中高が望ましい
3	くらし安心課 包括支援係	高齢者、障害者疑似体験セット貸出し 介護、高齢者に関する講話	学校対応可 小中高が望ましい
4	住民課 税務係	租税教室など税の仕組みについて講話 税に関する事であれば対応可	租税教室は小学生 中高は税務署対応
5	地域政策課 政策推進係	地熱エネルギー、エネルギー施策、まち づくり、人口問題などの講話 島の未来を語りあう際の支援	学校対応可 小中高が望ましい
6	地域政策課 情報防災係	防災行政無線放送録音体験 町ホームページ記事作成体験 震災・防災に関する講話 避難所運営ゲーム北海道版(Doはぐ)の 実施	小学校高学年、中高が 望ましい 高校生が望ましい 学校対応可、小中高が 望ましい 学校対応可、小学校中 学年以上、中高が望ま しい
7	発電課	奥尻島における発電状況について講話 実際に動いている発電機の見学	3,4月以外対応可 小中高が望ましい 現場で対応
8	空港管理事務所管理係	活動風景の見学	小中高が望ましい現場 で対応

	部署	支援内容	備考
9	教育委員会社会教育係	奥尻島津波館での当時の状況について講話 稲穂ふれあい研修センターで、島の歴史や昔の生活様式について講話、勾玉作り体験	現場で対応 津波館は7,8月以外、 稲穂ふれあい研修センターは、木土以外が望ましい
10	教育委員会子ども支援係	こねこ教室(満2歳児以下)うさぎ教室(満2歳児)ぱんだ教室(満3歳児)対象の乳幼児や保護者との関わりや体験活動	中高が望ましい
11	産業振興課水産係	魚貝類の観察(幼、低学年) アワビセンター見学、アワビマグネットづくり、メカブ等の加工体験、魚貝類の解剖(小学生) アワビセンター簡易作業体験、ロープ結び体験(中学生)漁業、魚について講話	時期によって内容は変化 現場、学校対応可 人数が多すぎると対応難しい 幼小中が望ましい
12	産業振興課農林係	リンゴ園での作業体験(摘果、袋かけ、袋外し、収穫) 木質バイオマスの講話 チップボイラー見学 稲作(田植え、稲刈り)作業 アスパラ収穫作業 醸造用ブドウの収穫作業 植樹活動の体験(植樹祭)、木質教室	すべて作業時期があるので早めに要確認 小中高対応可 リンゴ狩りのみ幼稚園児対応可
13	産業振興課商工観光係	島の観光に関することについて講話や職業体験	学校対応可 小中高が望ましい
14	建設水道課	浄水場、下水道施設の見学	小学生が望ましい 現場で対応
15	奥尻町議会総務係	町議会のしくみについて講話 町議会の傍聴	
16	奥尻町国民健康保険病院	職場体験の受け入れ 将来看護婦を目指したい人の実習体験	中高が望ましい
17	ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係	地熱エネルギー、エネルギー施策などに関する講和	学校対応可 小中高が望ましい
18	ゼロカーボン推進課 環境センター係	環境センターの施設見学	

	部署	支援内容	備考
19	整備交通課 自動車整備係	自動車整備の仕事に係る職場体験の受入れ	職場体験だと2名程度まで
20	整備交通課 バス運行係	バス運転の仕事に係る職場体験の受入れ	職場体験だと2名程度まで
21	江差警察署奥尻駐在所	警察の仕事やパトカーの装備品など現地説明 職場体験(指紋採取して識別鑑定など)	小中学生が望ましい
22	檜山広域行政組合奥尻消防署	消防業務棟を授業で説明 消防車や救急車、機械器具の見学	消防署にて対応可 幼小中高対応
23	檜山地区水産技術普及指導所奥尻支所	水産業の概要や水産普及活動について講話 海の生物観察など現地体験学習	小学生、夏休み明けが望ましい 学校、現場対応可
24	檜山森林管理署奥尻森林事務所	ゲームを通じて森林に親しむ(低学年) 木工等通じて森林に親しむ(中学年) 樹木の識別で森林に親しむ(高学年) 森林働き、奥尻森林状況講話(中学生) 日本、世界の森林状況講話(高校生)	5~10月頃が可 学校対応可 現場(保護林や公園)で対応 要早めの相談 少人数対応
25	航空自衛隊 北部航空警戒管制団第29警戒隊	航空自衛隊の仕組みの授業 奥尻島分屯基地の役割授業 奥尻島分屯基地の見学	小中高で可 学校での説明可、基地での対応可 時期は都度調整



R6 はたらく車大集合

## 社会教育関係団体

地域の社会教育活動に自発的に参加し、学ぶことで、地域の活性化や町民の豊かな心を育むことを目的とした団体で、文化活動、体育活動をはじめ、学校や地域とさまざまな形で関わっています。

	団体	目的	愛好会
1	奥尻町文化協会	文化活動を通し町民の相互の親睦と郷土文化の向上発展に寄与することを目的としている。	1 楽心会(茶道) 2 ファブリックの会(手芸) 3 パーチメント(工芸) 4 奥尻吹奏楽団(吹奏楽) 5 奥尻島文化研究会(郷土研究) 6 奥尻ソーイングクラブ(手芸) 7 奥尻ピアノサークル(ピアノ) 8 押し花サークル(押し花) 9 トール&デコラティブペイント工房「アンジェリケ」 10 生け花の会 11 その他個人参加
2	奥尻町スポーツ協会	町民の体育振興と親睦を図り、体力の向上とスポーツ精神を養う。	1 剣道振興会 2 スキー愛好会 3 バレーボール愛好会 4 奥尻モルッククラブ 5 野球愛好会 6 バドミントン愛好会 7 卓球愛好会 8 ゲートボール連合協議会
3	奥尻町女性団体連絡協議会	女性の地位と教養を高め、正しく社会を理解し、民主的な女性団体活動の推進によって女性の幸福を図る	
4	奥尻町PTA連合会	奥尻町内各学校の相互の連絡を緊密にするとともに、町内児童・生徒の家庭生活、学校生活、社会生活における望ましい成長を図る。	
5	奥尻町スポーツ少年団	スポーツを通して、少年の心身を鍛錬するとともに、町内スポーツ少年団の育成指導を図る。	1 奥尻剣道スポーツ少年団 2 奥尻野球少年団 3 奥尻バルシューレ愛好会

### III 社会教育施設の概要

奥尻町内にある社会教育施設についてご紹介します。

施設名	住所	電話番号	利用目的
奥尻町 海洋研修センター	字奥尻314地先	2-3890	図書室の利用
	開館日時	休館日	社会教育団体の活動
	平日(4~10月) 9時~21時	毎週月曜日 ※月曜日が祝日の場合は 直後の平日	会議、講演 調理室の利用など
	平日(11~3月) 9時~20時	年末年始	
	土日祝 9時~17時		
	延べ床面積	設立年	
	2,402㎡	平成8年度	

施設名	住所	電話番号	利用目的
稲穂ふれあい研修 センター	字稲穂162	2-2201	歴史・風土学習
	開館日時	休館日	古民具見学
	5月初旬~10月末 の9時30分~16時30分	木・土以外	体験学習など
	延べ床面積	設立年	
	585㎡	平成15年度	

施設名	住所	電話番号	利用目的
奥尻島津波館	字青苗36	3-1811	津波の記録の学習
	開館日時	休館日	防災意識の啓発
	4月下旬~10月31日の 9時~17時	7月・8月以外の 月曜日	研究、研修など
	延べ床面積	設立年	
	1,347㎡	平成12年度	

施設名	住所	電話番号	利用目的
奥尻町町民センター	字赤石144	2-3220	スポーツ
	開館日時	休館日	調理実習
	13時～16時	毎週月曜日	町内会利用
	18時～21時	年末年始	宿泊研修
	延べ床面積	設立年	弓道場の利用など
	1,929㎡	昭和63年度	

施設名	住所	電話番号	利用目的
奥尻町桜ヶ丘スキー場	字奥尻501	なし	スキー
	オープン日時	定休日	スノーボード
	1月～3月中旬		愛好会の活動
	平日 13時～21時 土日祝 10時～21時	悪天候等による休止以外、 開放中はなし	検定など
	延べ床面積	設立年	
	17,500㎡	昭和54年	



おくしりチャレンジスクール「町民スキー教室」(桜ヶ丘スキー場)

### III 指定文化財の概要

#### 北海道指定文化財

新羅之記録	
種別	有形・美術工芸
住所・所在	奥尻郡奥尻町字赤石 松前家所蔵
指定月日	昭和45年(1970)2月12日
概要	初期の松前家の事績を記録する古文書で、寛永20年(1643年)に編纂された松前家系図を6代藩主の弟、松前景廣がその不備を正し、記述を補って作成された。北海道最古の歴史文書と言われる。上下2巻の巻物で、「家譜一・二」と記され、巻頭と巻末には源氏の氏神である新羅神堂の朱印が押される。「新羅之記録」とされる由縁である。別名「松前国記録」、「新羅記」とも。

青苗砂丘遺跡	
種別	史跡
住所・所在	奥尻郡奥尻町字青苗337-1ほか
指定月日	平成20年(2008)3月18日指定
概要	青苗砂丘に埋もれた6~7世紀頃のオホーツク文化の遺跡の存在が判明した。この文化は、サハリンやオホーツク海沿岸で栄えた文化で、舟で海上を移動したことにより遠い奥尻島まで到達したものと推測される。遺跡からは土器や石器の他に、人骨やクマの歯、本州産(島根県)の管玉や鉄製刀子など特徴的なものが発見され、列島の広範囲で交易が行われていたことを示している。砂丘の地下約2mの場所に遺跡が広がり、近年では平成5年(1993)の北海道南西沖地震津波を受けて削られたが、砂丘のおかげで後ろ側の住宅の被害が軽減するなど、自然の防波堤の役割も果たしている。オホーツク文化の南下を示す重要な遺跡である。

青苗遺跡出土品	
種別	有形 美術工芸(考古)考第28号
住所・所在	奥尻郡奥尻町字奥尻314地先(奥尻町教育委員会内)
指定月日	平成29年(2017)3月31日指定
概要	昭和51・52年(1976・1977)度に青苗遺跡から出土した骨角器と土器119点が北海道有形文化財に指定された。道指定は「新羅之記録」、「青苗砂丘遺跡」に次いで島内3例目、考古遺物では初めてで、同部門では、檜山管内でも2例目。 遺跡は奥尻島南端、青苗地区の海を見下ろす段丘上に位置し、縄文時代と擦文時代の文物が出土する複合遺跡。海岸部へ続くゆるやかな斜面には、かねてより擦文期の貝塚が存在することが知られており、昭和初期のとある紀行文にも「鮑の貝塚」として登場する。 貝塚出土品の内、約8割がアワビの殻で、他にニホンアシカや魚類の骨、ウニの殻などが見つかっているが、それらに混じって、獲物を捕獲するために使用した漁労具である、クジラやシカの骨で造られた精巧な骨角器が多数出土し、研究者の注目を浴びている。

北海道の擦文時代は本州の平安時代に相当し、貝塚の時期は付近から出土した土器の特徴から11～12世紀頃のものとして推定される。この頃はすでに貝塚が遺されるような時代ではなく、青苗の事例は極めて稀。そこから出た骨角器の多くは、銚頭と呼ばれる離頭銚の先端部分で、一部に鉄製の矢じりが残るものや、鹿角製の基部に装飾が施されたもの等があり、島に出入りしていた擦文人の漁労生活の一端を解明する好資料。擦文人は、島の名産品となるアシカの毛皮や干しアワビを用いて、手広く交易を行っていたものと推定される。

※奥尻町海洋研修センターにて一部を展示中

## 奥尻町指定文化財

丁字頭勾玉	
種別	有形・美術工芸（考古）
住所・所在	奥尻郡奥尻町字奥尻314番地地先（奥尻町教育委員会内）
指定月日	平成21年（2009）12月22日
概要	<p>青苗遺跡出土の勾玉で、大きさは北日本で最大級、丁字頭タイプは北日本では非常に稀な出土例である。形状や特徴から古墳時代の西日本に由来する可能性がきわめて高い一級品の丁字頭勾玉である。糸魚川産のヒスイ原石を用いた勾玉は近畿地方を中心とする西日本に多く発見され、古代における日本海交易の結果、奥尻島にもたらされたと考えられる。</p> <p>※夏季は奥尻島津波館にて展示中</p>

鍋釣岩	
種別	名勝
住所・所在	奥尻郡奥尻町字奥尻奥尻海岸沖（鍋釣海岸4間半先）
指定月日	平成11年（1999）7月26日
概要	<p>高さ約19mの奇岩で、その形が鉄鍋の弦（つる）に似ているところから命名されている。岩は海底の火山活動に由来し、溶岩が噴出しなかったまま冷却されて固まり、後世に軟質だった周囲の岩盤が消滅し、溶岩部分だけが取り残されたもの。岩石の石質は安山岩。明治時代以前から岩に生えている植物はヒロハノヘビノボラスと言い、とげがあって、蛇が登れないというのが、命名の由来。震災の影響で若干崩れたため、脆弱な箇所を補強してある。</p>

宮津弁天宮	
種別	有形(建造物)
住所・所在	奥尻郡奥尻町字宮津83番地
指定月日	平成11年(1999)月26日
概要	<p>文政年間(1818~1829)に、宮津地区の漁民の手によって氏神として境内と社殿が創設され、海上安全と豊漁を祈願して弁財天が祀られた。その後、改めて広島の巖島神社より宗像三女神が祀られ、天保12年(1841)に祭神(長女の澳津島姫命)が奥尻地区に移され、現在の澳津神社となった。以降は「宮津弁天社」や「中津島神社」とも呼ばれる。古くは9世紀頃のオホーツク文化の遺跡(宮津遺跡)や、16~17世紀頃のアイヌの砦であるチャシ(宮津チャシ跡)が築かれていたと考えられ、その“チャシ”は“茶津”(宮津の旧名)の語源になったと言われる。奥尻海峡を行き来する舟を見渡せる場所であり、神社が建立される以前から奥尻島において重要な場所であったと思われる。現社殿は、昭和45年(1970)に建設された。平成11年(1999)に屋根を改修、令和7年(2025)にクラウドファンディングにより外壁と回廊を改修した。</p>

徳洋記念碑	
種別	有形(建造物)
住所・所在	奥尻郡奥尻町字青苗 青苗岬先端(徳洋記念緑地公園内)
指定月日	平成26年(2014)10月1日
概要	<p>明治13年(1880)に青苗岬で英国軍艦が座礁した際、乗艦していた有栖川宮威仁親王の遺徳と国境を越えた救助活動の美德を讃えるもの。親王が海軍少尉補として乗船し、訓練のため遠洋航海の途中、青苗沖に座礁した。親王は島に上陸し、島民や他国の軍艦とともに救助活動にあたった。青苗在住の三国十次郎は、この事績を後世に伝えようと精力的に情報収集に努め、昭和6年(1931)、徳洋記念碑が完成した。全長約17m、鉄筋RC造。福岡五一設計、地崎組建設施工。その後岬を襲った、昭和58年(1983)の日本海中部地震津波と、平成5年(1993)の北海道南西沖地震津波に耐えた近代建造物であり、奥尻の歴史を見守ってきた貴重な記念碑である。</p>

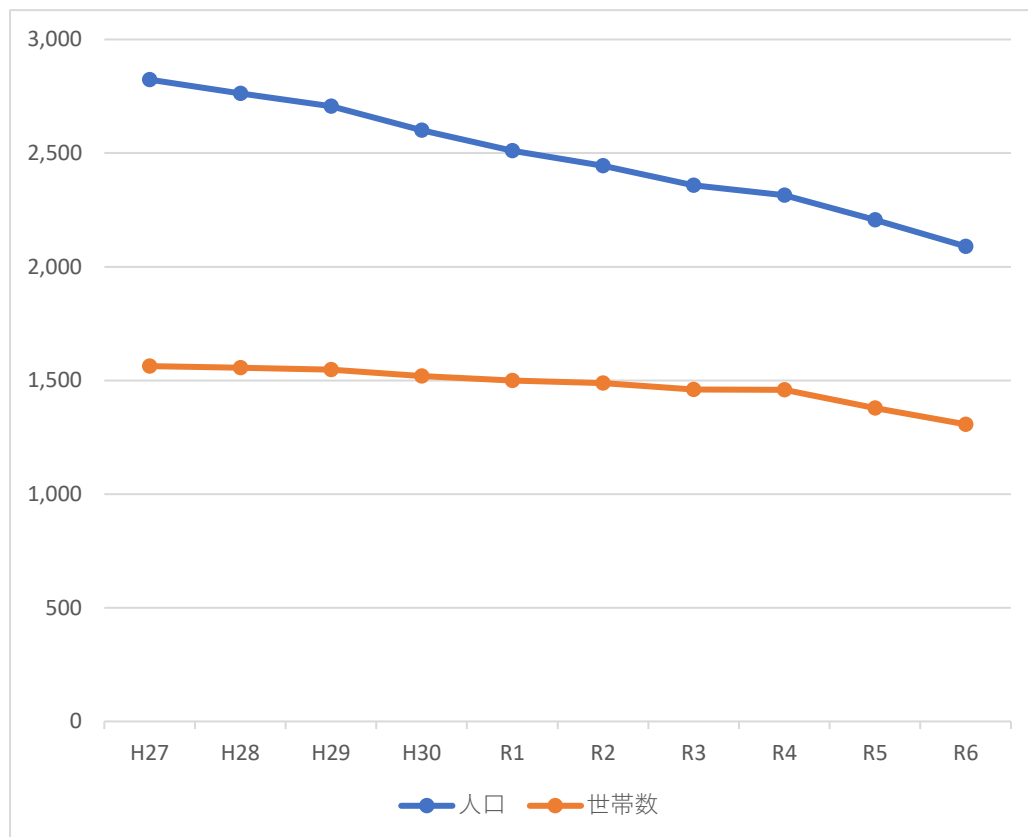


## 第2節 基礎資料

### I 人口及び世帯数の推移

年度別	総人口(人)			世帯数(世帯)
	男性	女性	計	
平成27年度	1,458	1,365	2,823	1,563
平成28年度	1,437	1,325	2,762	1,556
平成29年度	1,415	1,291	2,706	1,547
平成30年度	1,368	1,232	2,600	1,519
令和1年度	1,346	1,165	2,511	1,499
令和2年度	1,309	1,136	2,445	1,488
令和3年度	1,252	1,106	2,358	1,460
令和4年度	1,234	1,081	2,315	1,459
令和5年度	1,158	1,049	2,207	1,379
令和6年度	1,087	1,003	2,090	1,307

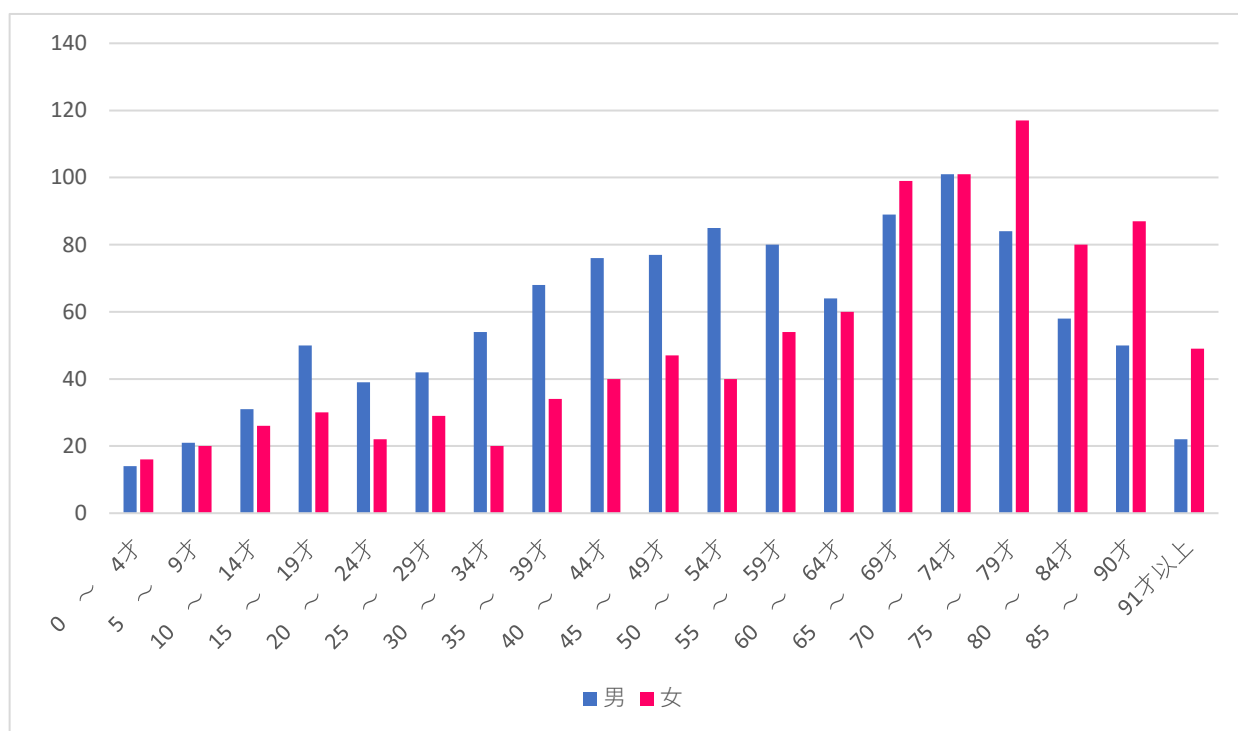
※各年度の3月31日時点で集計



## II 年齢別・男女別人口数

年齢別	令和7年度		
	総数	男	女
総数	2,076	1,105	971
0～4才	30	14	16
5～9才	41	21	20
10～14才	57	31	26
15～19才	80	50	30
20～24才	61	39	22
25～29才	71	42	29
30～34才	74	54	20
35～39才	102	68	34
40～44才	116	76	40
45～49才	124	77	47
50～54才	125	85	40
55～59才	134	80	54
60～64才	124	64	60
65～69才	188	89	99
70～74才	202	101	101
75～79才	201	84	117
80～84才	138	58	80
85～90才	137	50	87
91才以上	71	22	49

※ 令和8年1月31日時点で集計



### III 奥尻町立幼稚園・小中高等学校在籍者数の推移予測

#### 1 幼稚園児の今後の推移（令和3年～令和12年まで）

年度別	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
奥尻	21	20	20	16	10	9	9	14	13	9
青苗	10	9	8	7	8	7	5	6	6	6
総計	31	29	28	23	18	16	14	20	19	15

#### 2 小学校児童の今後の推移（令和3年～令和12年まで）

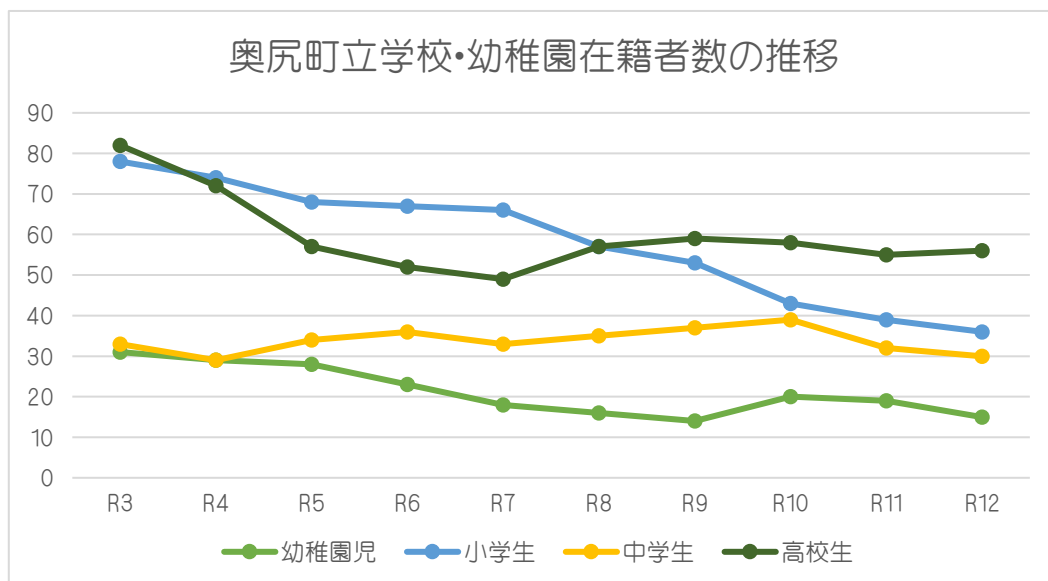
年度別	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
奥尻	46	46	45	45	47	36	36	28	27	24
青苗	32	28	23	22	19	21	17	15	12	12
総計	78	74	68	67	66	57	53	43	39	36

#### 3 中学校生徒の今後の推移（令和3年度～令和12年度まで）

年度別	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
奥尻	33	29	34	36	33	35	37	39	32	30

#### 4 高等学校生徒数の今後の推移（令和3年度～令和12年度まで）

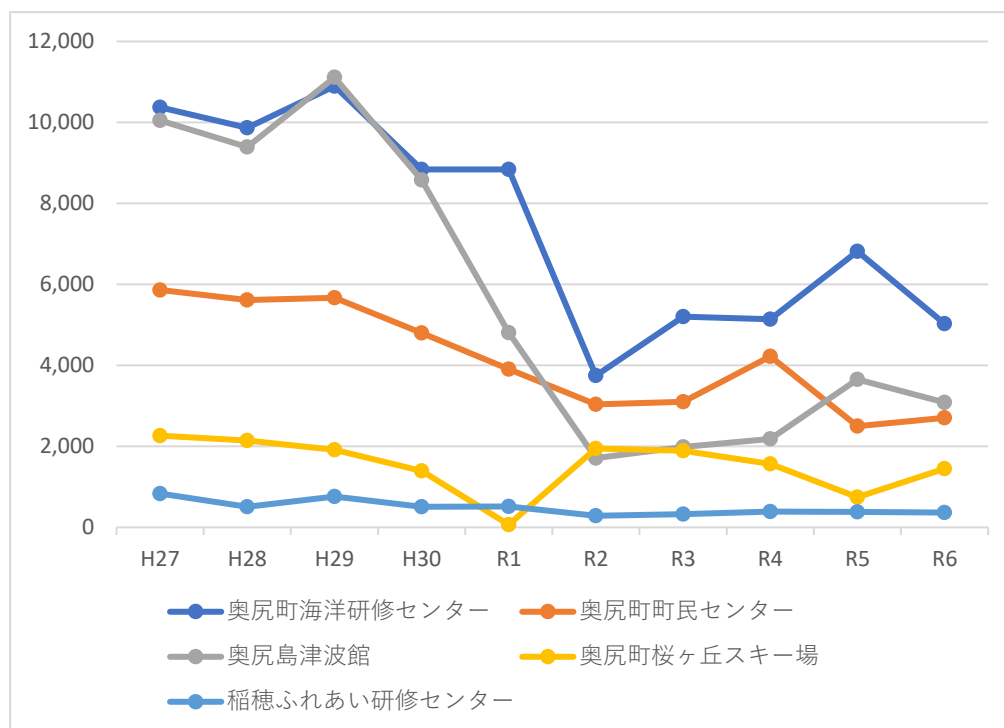
年度別	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
奥尻	82	72	57	52	49	57	59	58	55	56



#### IV 社会教育施設の利用状況の推移

年度別	奥尻町海洋研修センター	奥尻町町民センター	奥尻島津波館	奥尻町桜ヶ丘スキー場	稲穂ふれあい研修センター
平成27年度	10,375	5,863	10,045	2,265	835
平成28年度	9,870	5,618	9,391	2,148	505
平成29年度	10,896	5,670	11,113	1,913	758
平成30年度	8,841	4,797	8,581	1,393	506
令和1年度	8,841	3,909	4,805	67	518
令和2年度	3,747	3,038	1,711	1,950	286
令和3年度	5,203	3,098	1,984	1,891	325
令和4年度	5,140	4,227	2,186	1,569	387
令和5年度	6,818	2,499	3,653	747	382
令和6年度	5,030	2,708	3,083	1,451	363

※各年度の3月31日時点で集計

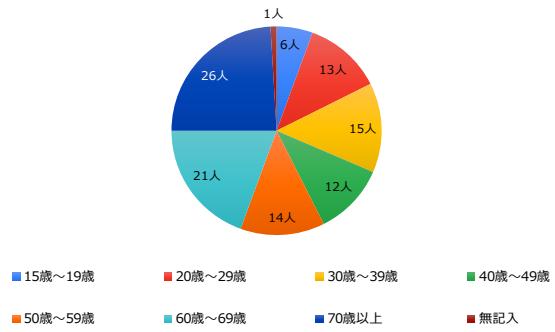


## 社会教育に関する調査結果

調査回答率 200 人中 108 人 ( 54 % )

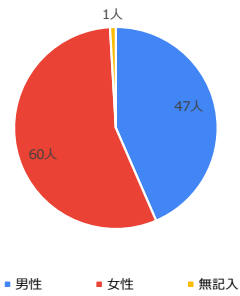
### 問1 年齢

年代	回答数	調査対象	回答率
ア 15歳～19歳	6人	20人	30%
イ 20歳～29歳	13人	20人	65%
ウ 30歳～39歳	15人	30人	50%
エ 40歳～49歳	12人	30人	40%
オ 50歳～59歳	14人	30人	47%
カ 60歳～69歳	21人	30人	70%
キ 70歳以上	26人	40人	65%
無記入	1人	-	1%
合計	108人	200人	54%



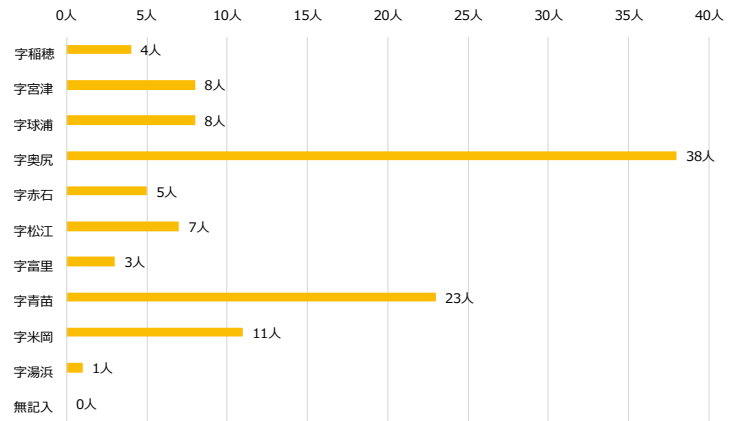
### 問2 性別

ア 男性	47人
イ 女性	60人
ウ 無記入	1人



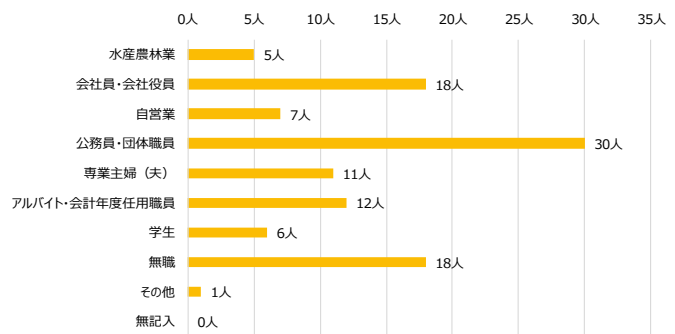
### 問3 住所

ア 字稲穂	4人
イ 字宮津	8人
ウ 字球浦	8人
エ 字奥尻	38人
オ 字赤石	5人
カ 字松江	7人
キ 字富里	3人
ク 字青苗	23人
ケ 字米岡	11人
コ 字湯浜	1人
無記入	0人
合計	108人

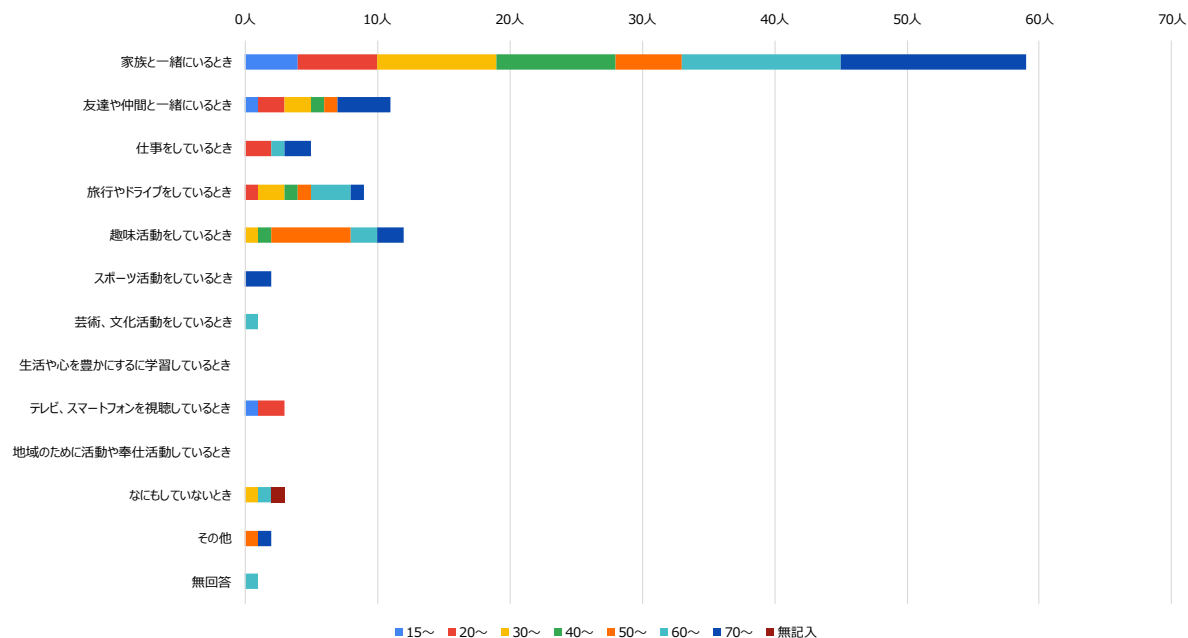


### 問4 職業

ア 水産農林業	5人
イ 会社員・会社役員	18人
ウ 自営業	7人
エ 公務員・団体職員	30人
オ 専業主婦（夫）	11人
カ アルバイト・会計年度任用職員	12人
キ 学生	6人
ク 無職	18人
コ その他	1人
無記入	0人
合計	108人



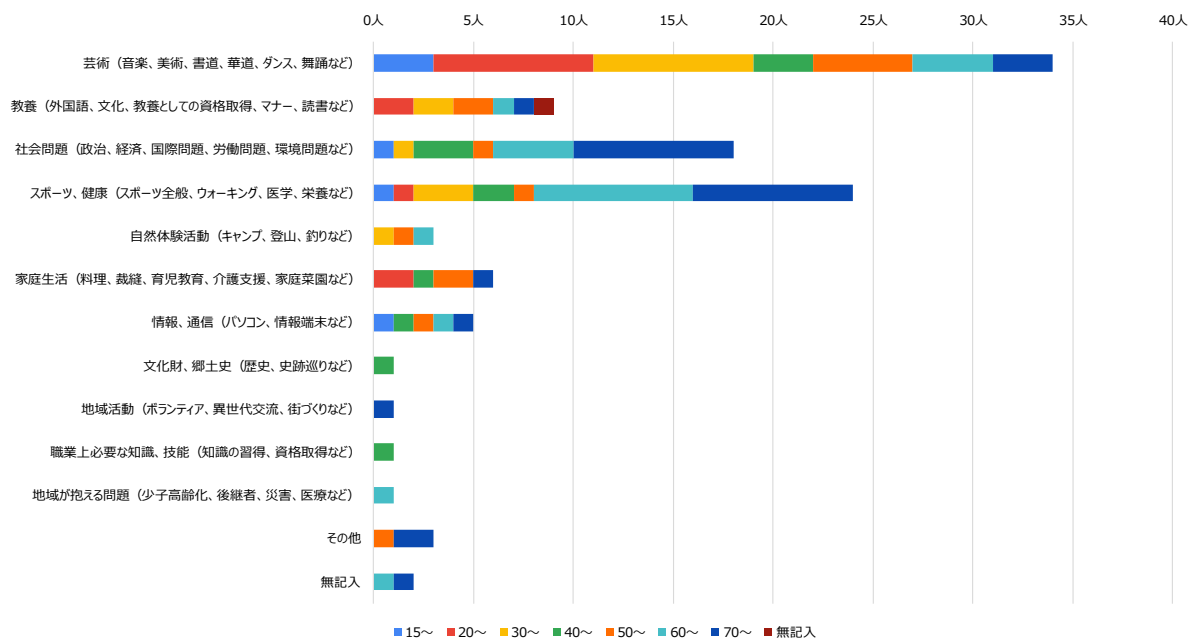
問5 あなたが日常世活の中で、心から満足したと感じるときは、どんな時ですか？



その他 ・心穏やかなとき ・心から満足することはない

**考察**  
 全体的に「家族と一緒にいるとき」が多い。5年前の今回は、50歳代は「趣味活動をしているとき」はわずかだったが、今回は、割合が一番多い。子育てを終え、自分の時間を好きなことに使いたい思いがうかがえる。

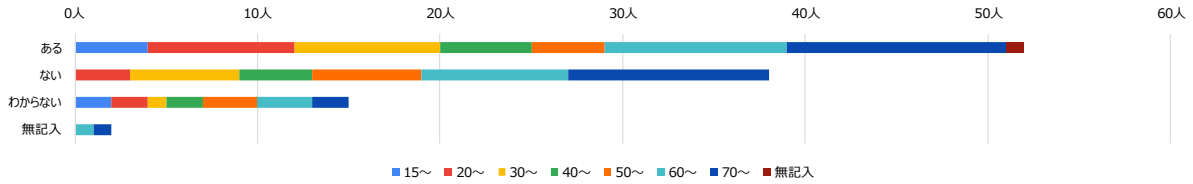
問6 あなたが日常生活の中で関心があることはなんですか。



その他 ・どうしたら無事に心穏やかに過ごせるか。

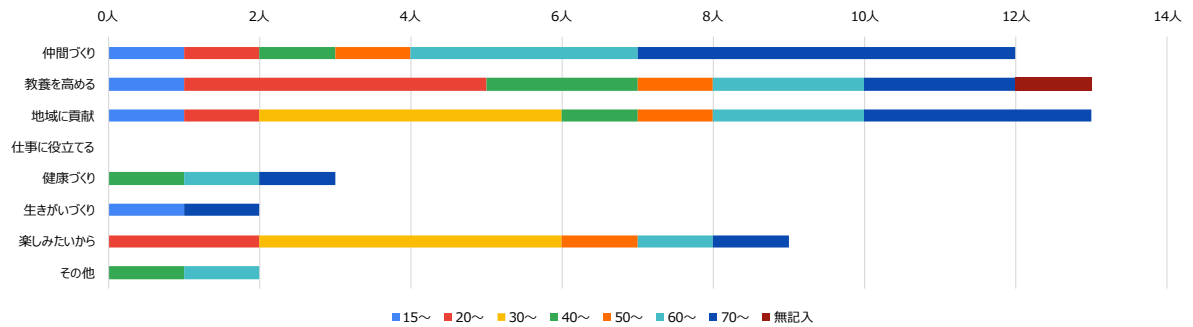
**考察**  
 世代別に関心のあることが分かれており、10～30代は芸術、40代は社会問題、50代は教養・家庭生活、60～70代は社会問題、スポーツ・健康がそれぞれ多かった。

問7 あなたは、今までに教育委員会が実施している社会教育事業に参加したことがありますか。



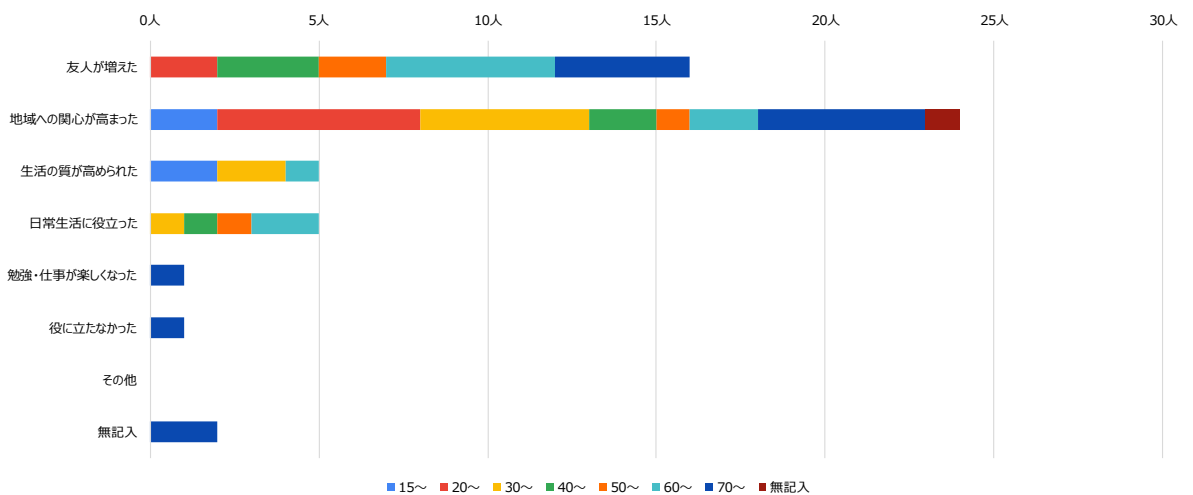
考察  
年代によるばらつきもあるが、参加した事がある人の割合が多かった。

問8 問7で「ある」を選んだ方に質問です。参加した理由はなんですか？



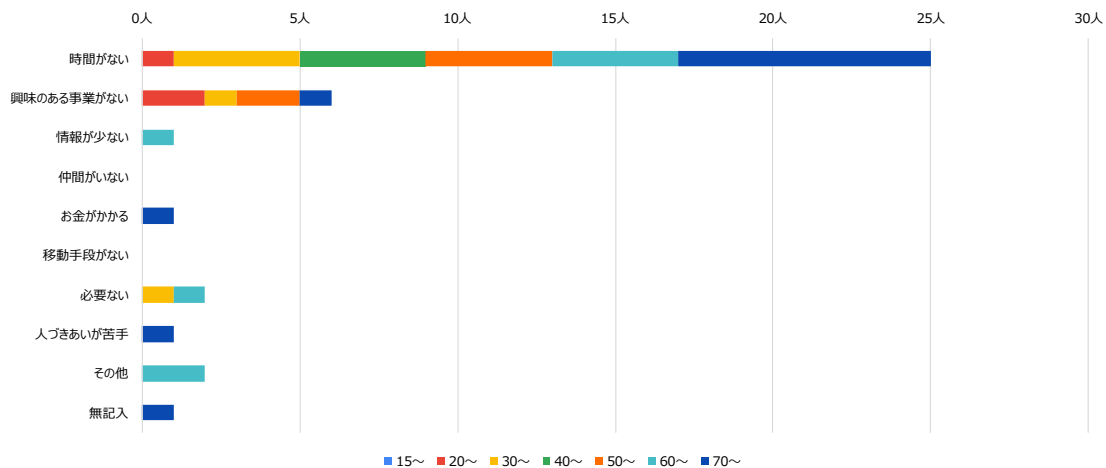
その他 ・子育てのため ・子どもが行きたいといったため、一緒に参加した  
考察  
どの年代も「仲間づくり」「教養を高める」「地域に貢献」が多かった。  
20代は「教養を高める」「楽しみたいから」が多く、30代は「地域に貢献」「楽しみたいから」の割合が多かった。  
社会教育事業の参加の目的は「地域づくり」や「自己研鑽」が多くと考えられる。

問9 問7で「ある」を選んだ方に質問です。社会教育事業に参加してどう感じましたか？



その他  
考察  
社会教育事業に参加する事とおして、地域でのつながりづくへの関心が高いことがうかがえる。

問10 問7で「ない」を選んだ方に質問です。社会教育事業に参加したことがない、しない理由は何ですか？

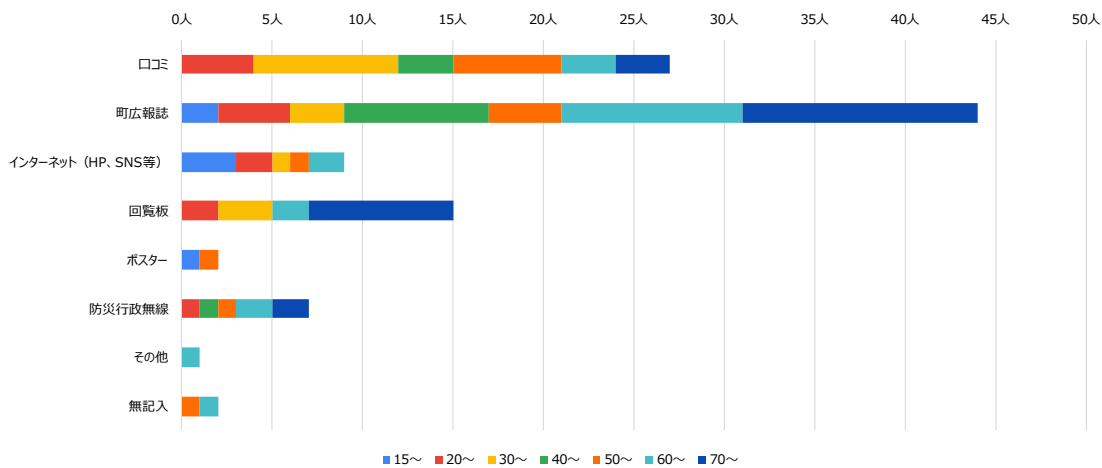


その他 ・教育委員会が何をしているかわからない・特に事業に興味を持っていない

考察

「時間がない」が一番多く、仕事や家事等で忙しい生活をしている事がうかがえる。  
 「興味のある事業が少ない」の回答も多いので、魅力ある事業の提供が必要となる。

問11 あなたは、社会教育事業の情報をどのように得ていますか？

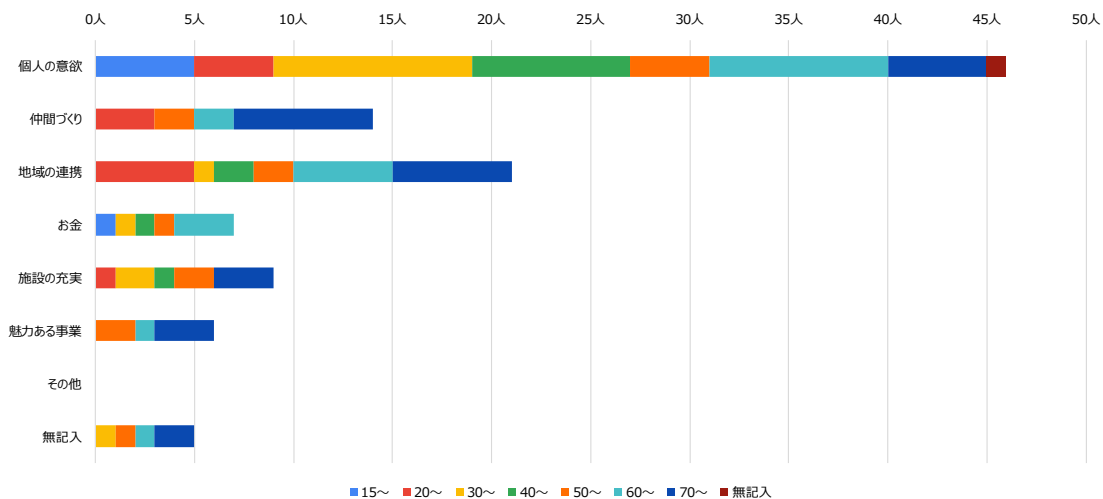


その他 ・多分、教育委員会は何もしていないのではないだろうか

考察

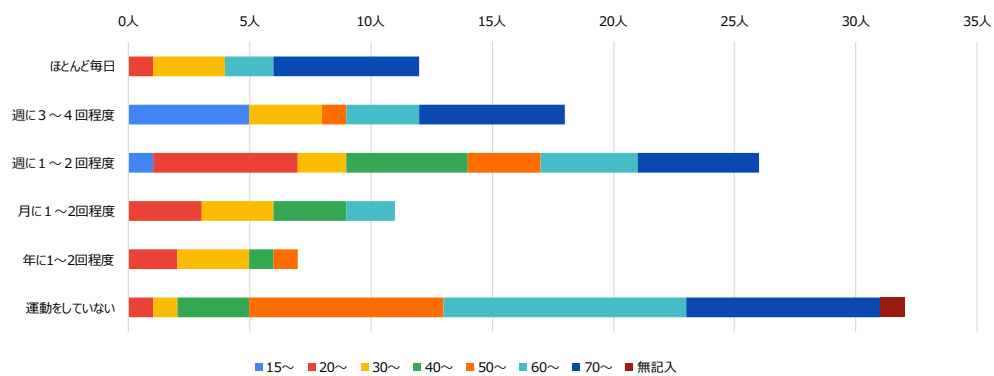
「広報誌」が一番多く、次いで「口コミ」「回覧板」が多い。  
 15~20代はSNSで情報を得ている人も多く、多様な方法で周知する必要がある。

問12 学びの環境づくりを進めるにあたって、何が必要だと思いますか？



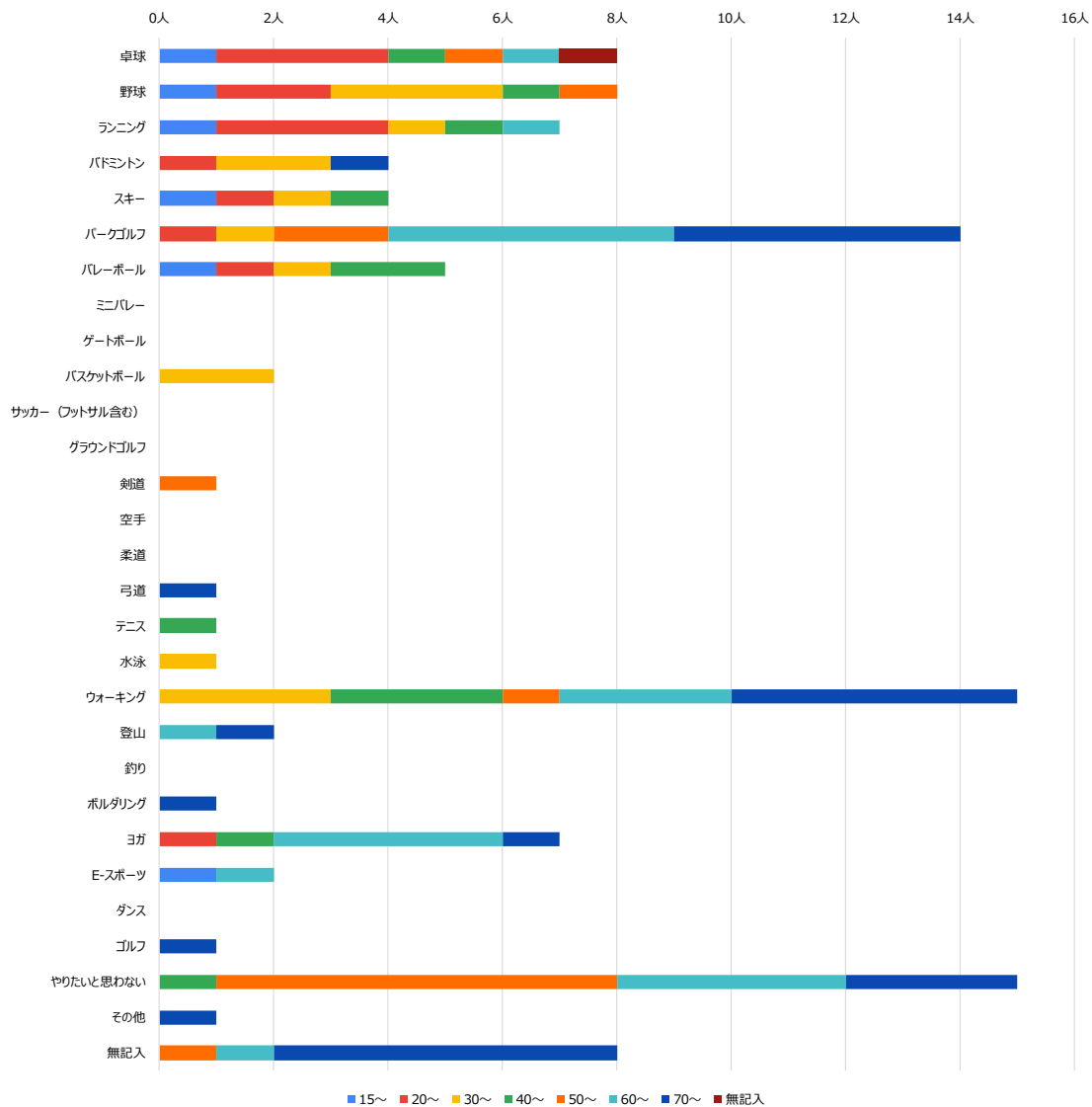
その他  
 考察  
 「個人の意欲」を引き出すような、学びの場づくり、交流事業等が必要である。

問13 あなたはこの1年間で、どのくらい運動やスポーツを行いましたか？



考察  
 この1年で「運動をしていない」人が最も多かった。特に50~70代の割合が大きかったため、運動機会を増やすような取組が必要である。

問14 あなたがこれからやりたい運動やスポーツはありますか？

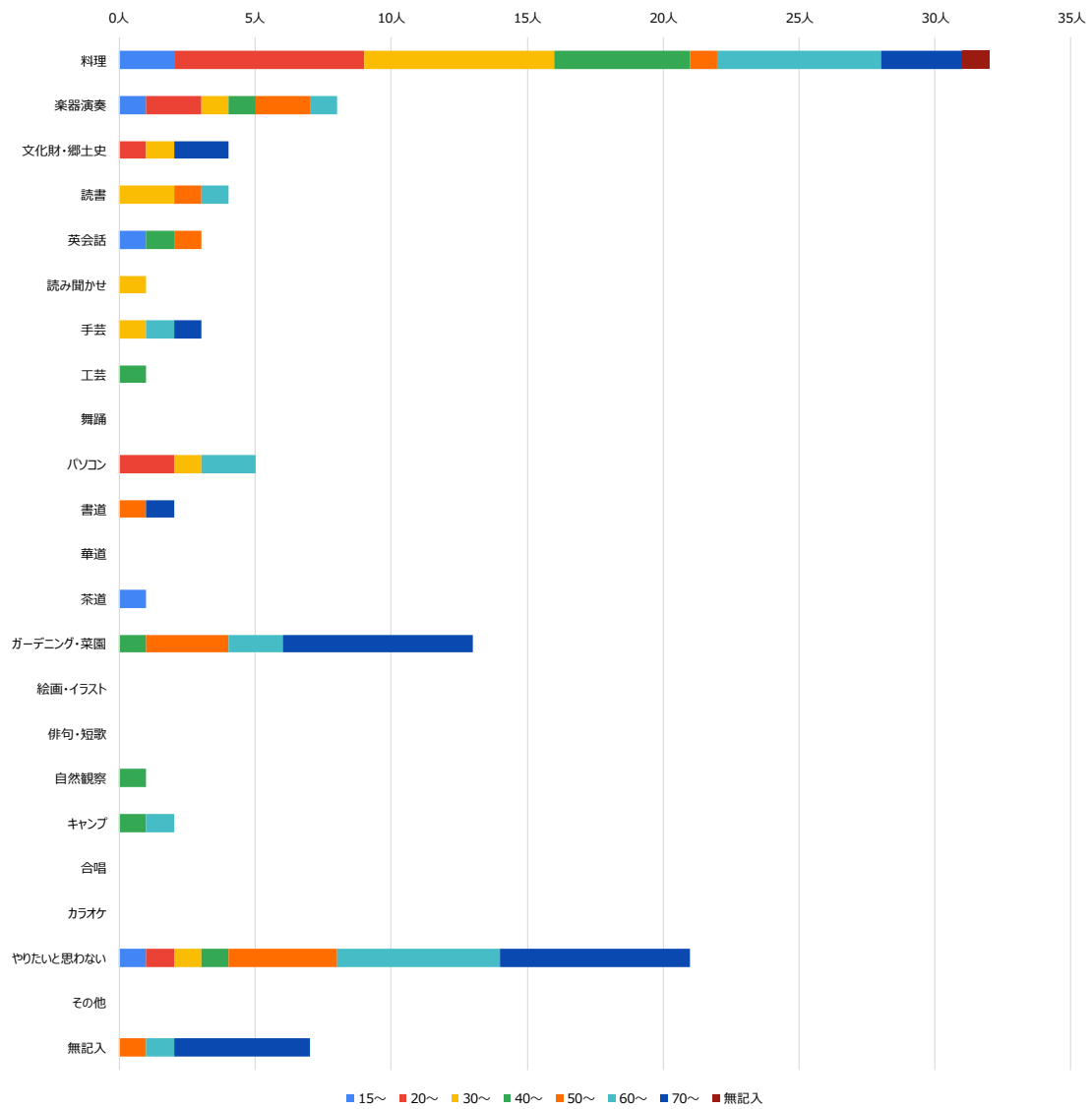


その他 ・仕事

考察

「パークゴルフ」「ウォーキング」が多く、特に60～70代がやりたいと回答する割合が多かった。  
15～20歳代は「卓球」「野球」「ランニング」が多かった。

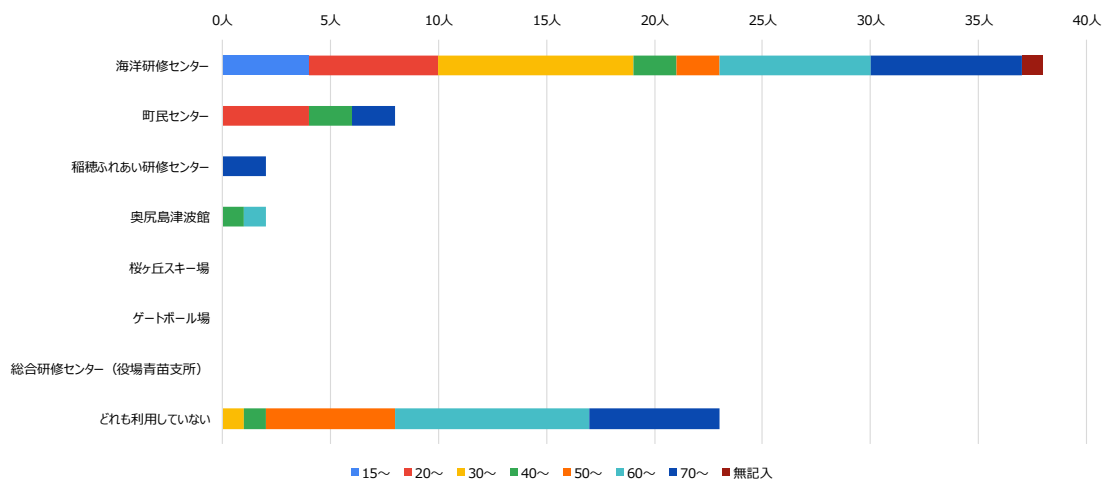
問15 あなたがこれからやってみたい文化活動はありますか？



考察

「料理」や「ガーデニング」が多かった。  
文化活動を「やりたいと思わない」割合も多かった。

問16 あなたはこの5年で、町内の社会教育施設・社会体育施設を利用しましたか？



考察  
多目的な用途がある「海洋研修センター」の利用が一番多かった。

問16 また、利用して施設について、ご意見・ご要望があれば記入して下さい。

- ア 女子トイレの照明が暗い。図書室は広くて書籍もたくさんあるのに利用者が少なくて勿体無いと思っている。本に関するイベント（高校生以上とかの大人向け読書会など）があれば参加してみたい。
  - ア 暖房などが聞いていて助かります。
  - ア 空いているだけでありがたいです。
  - ア 消防団 出初め式
  - イ 町民センターにスポーツの用具(バドミントンなど)を置いてもいいのではないかな。
  - イ スポーツジムのようなトレーニングマシンをいくつか設置してほしい。美術館や水族館の展示、映画の鑑賞、スポーツ選手（特に日ハム選手現役引退間もない）のトークショーが見たい。
  - イ 土日など体育館等使いたい 好きなスポーツをやりたい
  - エ 津波館の職員の説明が早口すぎて圧倒された。
- 閉館日などもっと分かりやすく明記して欲しい

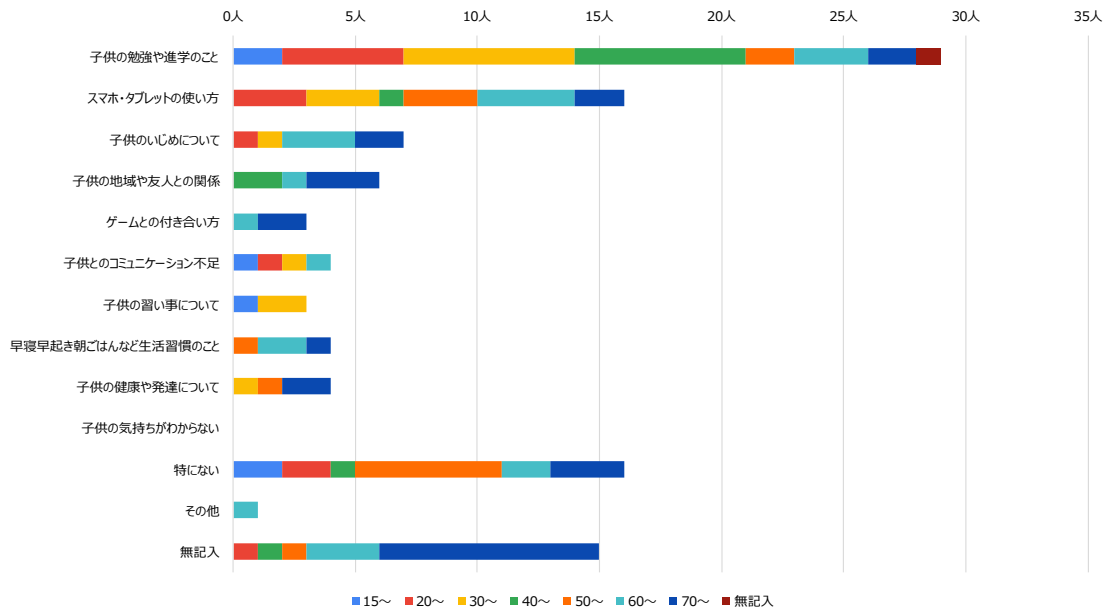
(施設の種類)

- ア 海洋研修センター
- イ 町民センター
- ウ 稲穂ふれあい研修センター
- エ 奥尻島津波館
- オ 桜ヶ丘スキー場
- カ ゲートボール場
- キ 総合研修センター（役場青苗支所）
- ク どれも利用していない
- 無記入

問17 上記以外で、使いたい、あれば便利だと考える社会教育施設・社会体育施設または設備があれば自由に記載してください

- ・乳幼児含め子どもが体を動かせる施設
- ・トレーニングジム、スポーツジム、ジム、パーソナルトレーナーもいると尚良い
- ・町民プールセンター、町民プール
- ・大規模な花畑
- ・サッカー場
- ・廃校となった学校の体育館
- ・学生の娯楽の場(勉強スペース含め)
- ・パークゴルフ場、整備をしっかりと充実させて欲しい
- ・うにまるここのゲートボール場のトイレの整備をしてもらいたい（教育委員会に関係）ないがトイレがあれば体育施設として使用できるのではないかな
- ・自由開放などあればもっとスポーツをやる機会が増える
- ・誰でも気軽にトレーニングなどができる施設があったら良いと思います。
- ・青苗にも勉強できる環境などがあれば来的人が増えると思う。わざわざ奥尻までバスを使っていくのが大変です。(高校生のたまり場にならないように配慮してくれるととっても良い。)
- ・予算もないのに机上の空論をまとめてどうする 日本一の田舎で何が出来る やらないことを誉れとする人ばかり

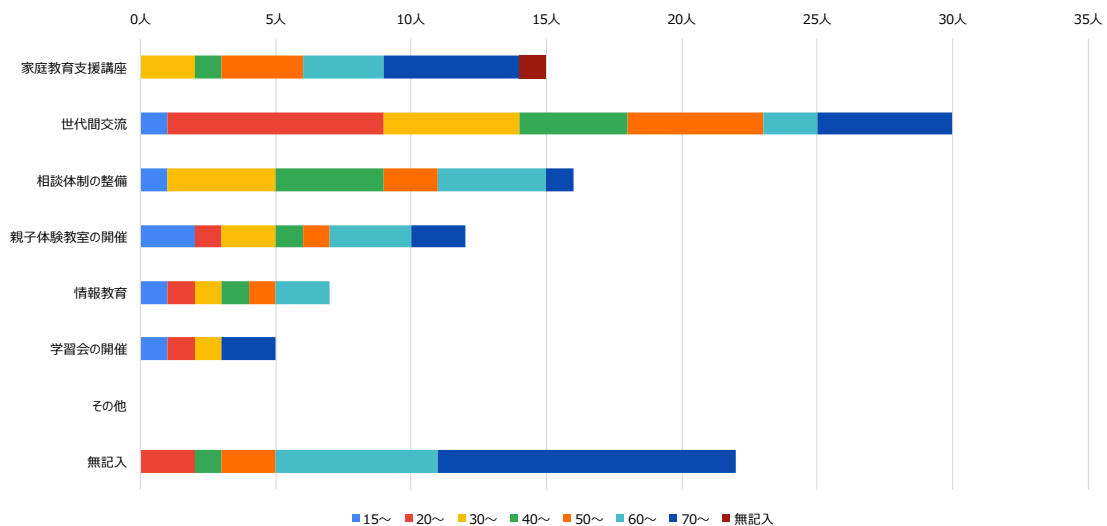
問18 子育てについて、皆さんの関心のあることについて教えてください。



その他 ・多様性を重視する

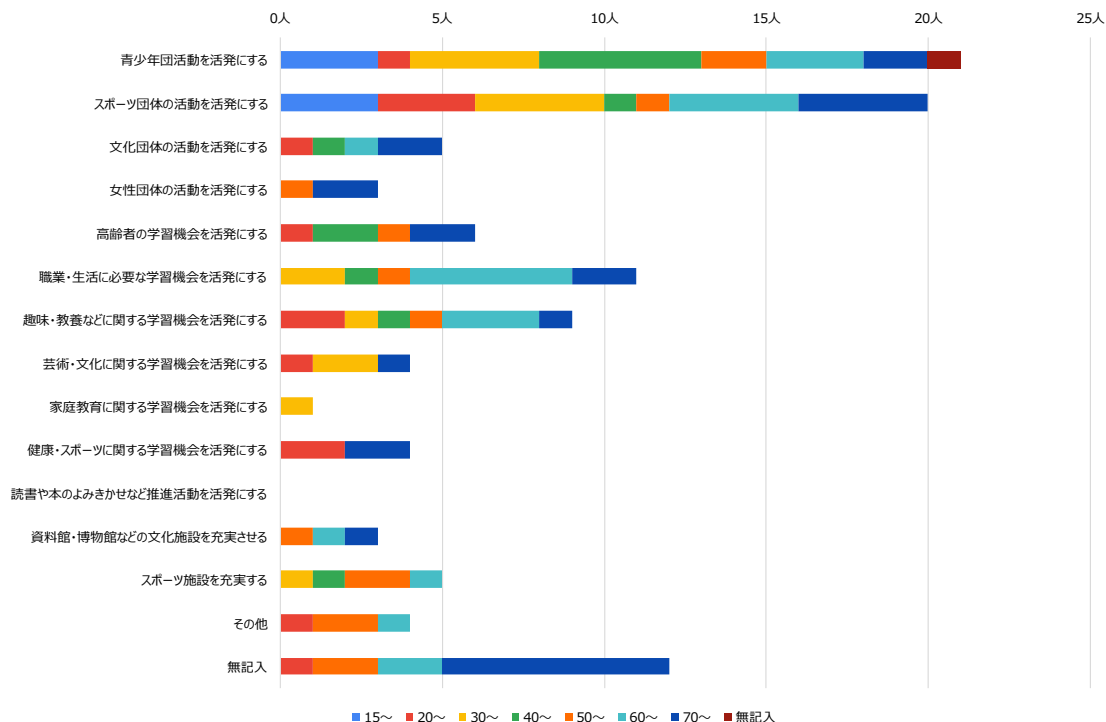
考察 「勉強・進学」や「スマホ・タブレットの使い方」について子育ての関心があることがうかがえる。

問19 家庭教育について、教育委員会がどのように支援する必要があると思いますか？



考察 特に20代、30代が「世代間交流」を行うことにより、家庭教育支援が必要だと考えている様子が見られる。

問20 奥尻町の社会教育振興のためにどんなことを特に望みますか？



その他 ・気軽に交流できる場・人材を確保するのが先、今も頑張っている印象を受け・年寄は出歩かない、家の中でもできる文化活動を考えたい

考察

社会教育関係団体（青少年、少年団、スポーツ団体、女性団体等）の活動支援や、職業・生活に必要な学習機会の創出が必要とされている。

問21 日頃から、教育委員会社会教育事業に関して思っていること、今後実施してほしいことや、今ある事業への意見などございましたら、今ある事業への意見などございましたら、自由にお書き下さい。

- ・百人一首大会(世代間交流にもなるかと)
- ・もっと学生の話聞いてもらいたいです
- ・年齢を重ねると行動力が弱まり色々な事業にも参加することが難しくなります。  
少ない人口で一つの事業への参加人数は少なくとも今まで以上の企画、実行を望んでいます。
- ・地域の課題解決のため、何が課題かを、何が実現可能かを、全体連携作りを可能にできるかも含めて考えてみます。
- ・現状をよく分かっていないので何とも答えられない。
- ・様々な行事が増えて町民のために考えて頂いているなど感じます。スタッフさん方が無理なく開催できる形で今後も企画、運営していただきたいです。
- ・イベントの実施毎度お疲れ様です。
- ・百人一首大会(世代間交流にもなるかと)
- ・町民マラソン大会が、自由参加になればよいと思います。  
(運動が苦手な子にとっての苦痛を軽減するため・毎年、ゴール後に倒れ込んだり、予後不良の子が出る)
- ・今後の展開はきたいできないももっと勉強して欲しい
- ・昔からスポーツばかりが重要視されていて、文化芸術に対する力の入れ方に格段の差があると思っていて、社会教育の担当者もスポーツに強い人ばかり集められていることが非常に気になります。  
文化的な事業を全くやっていないとは言いませんが、文化協会任せになっていることや、スポーツ推進員は設置しているけれど、芸術文化に関する組織は、文化財審議会しかなくて、組織だけ見ても、芸術文化に力を入れる姿勢が昔からない町だと思っていました。  
文化芸術の推進については、甘く見られたものだと思います。

## VI 奥尻町社会教育計画のあゆみ

---

第1次計画	昭和56年度	～	昭和58年度
第2次計画	昭和60年度	～	平成11年度
第3次計画	平成15年度	～	平成19年度
第4次計画	平成10年度	～	平成14年度
第5次計画	平成15年度	～	平成19年度
第6次計画	平成21年度	～	平成22年度
第7次計画	平成23年度	～	平成27年度
第8次計画	平成28年度	～	令和 2年度
第9次計画	令和3年度	～	令和7年度
第10次計画	令和8年度	～	令和12年度

## VII 奥尻町社会教育中期5力年計画策定委員会名簿

---

### 奥尻町社会教育委員会

佐藤和信 (委員長)  
永洞達也 (副委員長)  
工藤明子 (委員)  
佐藤鉄也 (委員)  
佐藤知香 (委員)  
田中さつき (委員)  
黒川貴功 (委員)  
佐藤智也 (委員)

### 奥尻町スポーツ推進委員会

菊地賢行 (委員長)  
津山千尋 (副委員長)  
佐藤鉄也 (委員)  
三原真紀子 (委員)  
小林英雄 (委員)  
中村英子 (委員)  
佐々木真弓 (委員)  
中島尊明 (委員)

### 奥尻町文化財保護審議会

制野征男 (委員長)  
工藤明子 (副委員長)  
明上雅孝 (委員)  
佐藤和信 (委員)  
永洞博 (委員)

### 奥尻町教育委員会事務局



## 第10次 奥尻町社会教育中期5力年計画

【令和8年度～令和12年度】

令和 8年 3月

発行 奥尻町教育委員会

担当 社会教育係

奥尻郡奥尻町字奥尻314番地地先

TEL 01397-2-3890

Mail [oku-shakyo@town.okushiri.lg.jp](mailto:oku-shakyo@town.okushiri.lg.jp)